

シンポジウム1. COVID-19とHBO

座長：医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 臨床工学部 赤嶺 史郎

高気圧酸素治療は密閉空間内に患者を収容するという性質上、感染症に対する配慮が重要であることは言うまでもありません。従来より重症軟部組織感染症（ガス壊疽・壊死性筋膜炎）や骨髄炎などの感染症のほか、熱傷・凍傷など易感染性の患者の治療も施行されていますが、接触・介達・空気・飛沫・経口・血液感染などの感染経路を考慮し、感染症患者の治療順位を決めることも必要となります。

火災事故の原因となる発火物と同様、安全の基本は装置内に危険物質（新型コロナウイルス含む）を持ち込まないことであり、持ち込まなければ、通常の清掃作業で済みます。しかし、万が一消毒が必要な場合、各消毒方法は利点と欠点を伴うため、各医療施設の感染管理部と相談の上、高気圧酸素治療の特性を踏まえ人体への安全性と装置の破損予防に留意する必要があります。

本学会より2020年3月20日「新型コロナウイルス対策 高気圧酸素室運用指針」が公表されていますが、陽性が判明している場合、治療の有益性が勝る場合を除き、高気圧酸素治療は行わないことが明記されています。

このセッションでは、新型コロナウイルス感染拡大により見通しが立たないなか、手探りの状態で高気圧酸素治療を継続してきた各施設のCOVID-19対策についてご発表いただき、診療体制の変更や感染対策方法などを協議し、今後の当該領域におけるCOVID-19対策を指し示す機会となりました。